

50センチ背が伸びたと言われるまで

株式会社 佐藤総合計画 本社・設計

下 渡 純 司

希望と仕事道具を抱きながら上京して3年、やっと仕事に慣れたと思い始めた頃、私の元に今回の原稿依頼が舞い込んできました。私はまさに“仕事の神様が、一度自分を振り返る時期が来たのだよ”と肩を叩いてくれたように感じました。

私が勤めている会社は、建築設計事務所です。設計事務所と言っても、個人で開いているアトリエ事務所、ゼネコン（建設会社）の設計部、そして設計に必要な部門を1社で有している組織事務所があり、私は組織事務所の意匠設計の部門に属しています。

おそらく一般の方は、設計の仕事は一日中図面を描く、模型を作る様な作業ばかりだと想像されるかもしれませんが、実際は全くそんなことはなく、図面を描いている時間は全体の1割にも満たないと思います。設計の仕事が始まると、施主との打合せや役所での法的な協議、お金の計算、構造や設備など各部門との調整など、関連した業務が山ほど発生します。時には打合せだけで一日が終わる日もあるくらいで、定時過ぎてからやっと机に向かって図面を描く等の作業に取り掛かれるという日も少なくありません。入社する前から忙しい業界だとは聞いていましたが、これほど忙しいとは、大学・大学院と6年間建築を学んでいても誰も教えてくれませんでした。会社の先輩に聞けばこれは誰もが通る道だと言われました。

私の会社は、部長・主任・スタッフの3人でチームを組んで1つの仕事を担当するのが基本であり、もっぱら主任を中心として仕事を進めます。スタッフは、主任の下について図面を描く作業や打合せをし、主任のサポートをしながら仕事を学んでいくスタイルが主流ですが、私が入ったチームは例外で、超が付くほど実践主義を徹底したチームでした。「初めてだろうがそんなのは関係ない。まず自分でやってみることが大事。自分で悩んで悩み抜いてやり方を考えなければ身に付かない」。これが、担当が決まり、チームでの打合せの際に部長と主任から最初に言われたことです。早速その日から打合せを始め、デザイン検討や調整等

は全て私が仕切ることになりました。

初めて施主と打合せをした日、私はガチガチに緊張して引きつった笑顔のまま挨拶を交わし、早速議題についての説明を始めました。こちらは各部門の担当者が総勢7人居る中で、圧倒的に若い私が仕切りだったので、施主の方々はぼかんとしていました。10歳も20歳も上の人間が居るのに、しゃべっているのは不器用な説明をしている新人の私だけ。明らかに相手の不信感が伝わってきました。しかし、打合せ前に部長から、内容が厳しくなったら助けるから自信を持ってしゃべってこいと言われていたので、できるだけ堂々と振る舞うように意識しました。そのお陰か、その日の打合せは事なきを得ました。時には叱られ、周りに迷惑をかけながらも、できるだけ誠実な対応を心掛けたことで、その物件の設計が終わる頃には、施主はまず私に連絡するようになっており、頼ってもらえるようになっていました。いつも私を叱ってばかりいた部長からは、「最初と比べて見違えるほど成長した、身長で言ったら50cmは伸びたな」と、初めて褒めてもらえ、思わず泣きそうになったのを今でも覚えています。

振り返って考えると、初めて仕事をする私に、よく全面的に任せてくれたと思います。任された方は、例えばプレゼンの資料を作成する時も、自分が説明をすることがわかっているので、事前に色々と考えながら作業に入りました。どう表現してどうやって話せばより伝わるだろうか、とぎりぎりまで考え、わからないことがあれば、質問されたときに答えられるよう徹底的に調べる等と、前向きに仕事ことができました。

現在は別の仕事をしていますが、最初の仕事で身に付けた「とにかく自分で考え、率先して実行することで、どんな小さな仕事でも自分が主体的にやっているのだという責任感と興味が沸き、より前向きに仕事を進めていける」という教訓を活かしながら、思い描いている夢に向かって猛進する毎日です。

(建築 平成16年卒 18年前期)